

## 【高鍋町】

### 端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	1,569	1,507	1,474	1,421	1,364
② 予備機を含む 整備上限台数	0	1,530	0	0	0
③ 整備台数 (予備機除く)	0	1,507	0	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	1,507	0	0	0
⑤ 累積更新率	0%	100%	0%	0%	0%
⑥ 予備機整備台数	0	23	0	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	23	0	0	0
⑧ 予備機整備率	0	1.5%	0%	0%	0%

#### 確認事項

- ・ ①の児童生徒数は、高鍋町立小中学校4校の児童生徒数とする。また、令和7年度以降の児童生徒数については、直近の学校基本調査と住民基本台帳をから推計している。
- ・ 予備機については、前回整備時における整備数と同程度での整備としている。

#### (端末整備・更新計画の考え方)

令和2年度に高鍋町立小中学校4校に予備機を含めて1,670台（Windows）整備している。今回のGIGAスクール構想第2期における端末整備・更新では、令和7年度の児童生徒数に予備機を加え1,530台（Chrome）を、令和7年度に更新する予定である。

#### (更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

- 対象台数：1,670台
- 処分方法
  - ・ R7 小型家電リサイクル認定事業者による処分：1,670台
- 端末データの消去方法
  - ・ 令和2年度に整備した使用済端末1,670台分について、小型家電リサイクル認定事業者が行う。
- スケジュール（予定）
  - ・ 小型家電リサイクル認定事業者による引き取りについて
    - 令和7年8月 新規購入端末の使用開始
    - 令和7年8月 使用済端末の事業者への引き渡し

## 【高鍋町】

### ネットワーク整備計画

#### 1 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

「校内通信ネットワーク環境整備等に関する調査」（文部科学省・令和5年11月実施）の結果では、「学校規模ごとの当面の推奨帯域」（文部科学省・令和6年4月）を超える学校はない。

また、同調査によると、「ネットワークが遅いと感じることがあるか」という設問に対して、「よくある」「たまにある」と回答した学校はなかった。

#### 2 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

##### （1）ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

本町においては、Bellnet を利用していることから、ネットワーク速度の確保はできていると判断しており、ネットワークアセスメントを行う予定はない。

##### （2）ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

本町においては、Bellnet を利用していることから、ネットワーク速度の確保はできていると判断しており、ネットワークアセスメントを行う予定はない。

## 【高鍋町】

### 校務DX計画

- 1 1人1台端末（指導者用）の整備について  
令和2年度に1人1台端末（指導者用）の整備を完了。
- 2 ネットワークの改善について
  - ・現在、高鍋町立小中学校4校において、普通教室、特別教室でインターネットの接続が可能。今後は体育館や講堂でインターネットの使用ができるように整備を進める。
- 3 校務のデジタル化について
  - ・令和6年12月に文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、一部でまだ保護者・外部とのやりとりで押印・署名は必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されていることから、災害や教育ネットワークの不具合時などFAXの方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。
- 4 1人1台端末の活用と個別最適・協働的な学びの充実について
  - ・1人1台端末を活用した個別最適・協働的な学びの充実には、教職員がソフトウェアを積極的に利活用することが前提となる。そのため、各ソフトウェアの使用法に関する研修を毎年実施する。
- 5 学びの保障
  - ・不登校児童生徒については、希望があった場合に端末を活用した授業への参加・視聴の機会が提供できる体制を整備する。
  - ・特別な支援を要する児童生徒等、児童生徒の実態に応じて端末を活用した支援を実施する体制を整備する。

(別添4)

## 【高鍋町】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末及びクラウドを活用して児童生徒自身が学びを自己調整し、個別最適かつ協働的に学ぶことで、主体的・対話的で深い学びが実現した姿。

#### 2. GIGA 第1期の総括

1人1台端末の整備については、令和2年度に整備率100%を実現した。ネットワークの整備については、Bellnetを利用していることから、ネットワーク速度の確保はできていると判断しているところである。整備した1人1台端末及び通信ネットワークを活用した学びの実践については、個別最適な学び及び協働的な学びを実現するためのソフトウェアを導入した。その結果、授業のまとめの場面や家庭学習の教材としてソフトウェアの活用が進み、個別最適な学びが実現されている。また、児童生徒が自分で調べる場面や自分の考えをまとめ、発表・表現する場面でもソフトウェアの活用が進み、協働的な学びにつながっている。

明らかになった課題としては、1つはキーボードの故障である。端末そのものの故障は少ないが、キーボードが外れたりすることが多い。タッチャブルタイプを導入しているため、キーボードのみ新しいものと交換するなどして対応してきた。GIGA 第2期でも、タッチャブルタイプを整備し、同様の対応を続けていく。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

故障が生じて端末が不足するような場合は随時予算を確保し、端末の整備を行う。1人1台端末環境を引き続き維持することを前提とし、以下のように利活用していく。

##### (1) 「1人1台端末の積極的活用」

授業や家庭学習、学校・家庭間の連絡等、様々な場面での1人1台端末活用を進める。

##### (2) 「個別最適・協働的な学びの充実」

端末を利活用した学習課題への取組により、理解度や学習速度に合わせた個物最適な学びを進める。また、「調べる」「発表・表現する」「やりとりする」という授業場面に応じた端末の活用を進め、協働的な学びの充実を図る。

##### (3) 「学びの保障」

不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒等に対して、その実態に応じて端末を活用した支援を実施する。